

令和5年度農作物病虫害発生予察注意報第5号

令和5年(2023年)10月3日

山口県病虫害防除所

病虫害名 野菜類・花き類・ダイズのカガ類 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ)

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多

3 注意報の根拠

- (1) 9月下旬の巡回調査(キャベツ)では、ハスモンヨトウは発生ほ場率60.0%(平成28.6%)、寄生株率11.8%(平成1.5%)、オオタバコガは発生ほ場率30.0%(平成5.0%)、寄生株率2.0%(平成0.1%)、シロイチモジヨトウは発生ほ場率30.0%(平成7.0%)、寄生株率2.0%(平成0.2%)で、いずれも過去10年で最も高かった(表、図1)。
- (2) ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数は9月下旬に急増しており、今後も発生の増加が予想される(図2)。
- (3) ハスモンヨトウは卵塊、若齢幼虫が中心であり、キャベツ等では早急に防除を徹底し、結球前の被害を防止する必要がある。
- (4) 福岡管区気象台の1か月予報(9月28日発表)では、気温は高く、降水量はほぼ平成並の見込みであることから、害虫の活動に好適な条件が続くと予想される。

4 防除方法

- (1) ほ場をよく観察し、発生及び被害が認められた場合には直ちに防除を行う。
卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 防除薬剤は、令和5年農作物病虫害・雑草防除指導基準を参考に選定する。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

5 防除上注意すべき事項

- (1) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (2) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) 施設栽培では、ハスモンヨトウは葉の裏や鉄骨パイプ等の高い位置に黄褐色の毛で覆われた卵塊を産卵することが多いので注意する。
- (4) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

6 その他

最新のフェロモントラップ誘殺数は、山口県病虫害防除所ホームページを参照する。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22319.html>

表 キャベツ調査ほ場での害虫発生状況(9月下旬)

| | 発生ほ場率(%) | | 寄生株率(%) | |
|-----------|----------|------|---------|-----|
| | R5年 | 平年 | R5年 | 平年 |
| ハスモンヨトウ | 60.0 | 28.6 | 11.8 | 1.5 |
| オオタバコガ | 30.0 | 5.0 | 2.0 | 0.1 |
| シロイチモジヨトウ | 30.0 | 7.0 | 2.0 | 0.2 |

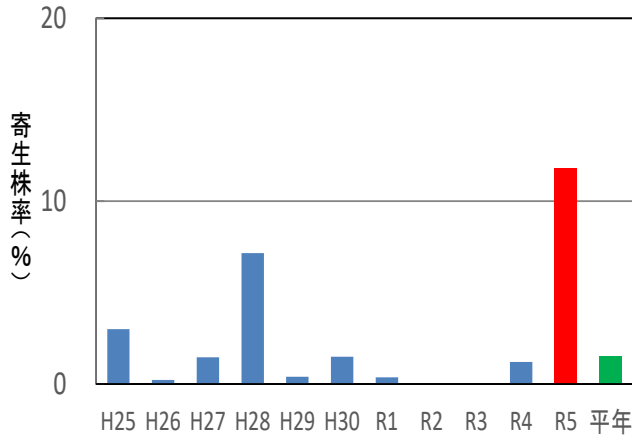


図1 キャベツほ場でのハスモンヨトウ寄生株率 (9月下旬調査)

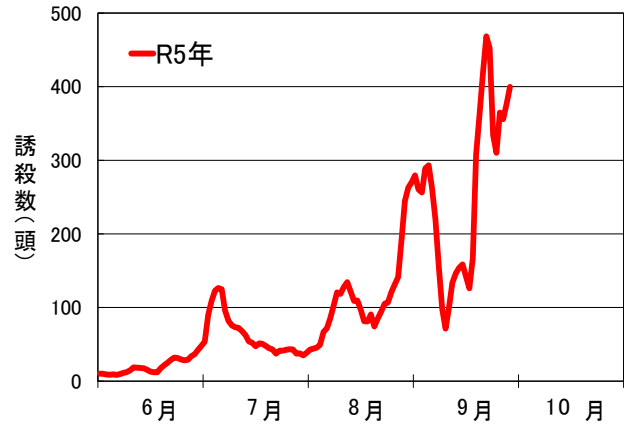


図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数



写真1 キャベツの被害株 (令和5年9月28日撮影)



写真2 ハスモンヨトウの卵塊(左)と若齢幼虫(右)



写真3 オオタバコガの老齢幼虫



写真4 シロイチモジヨトウの老齢幼虫